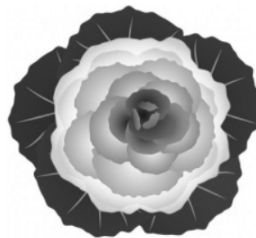


# 農業



令和元年11月号  
会誌 No. 1657

## 目次

### 巻頭言

変貌する日本の食と農……………八木 宏典 3

### 論 壇

スイスにみる新しい消費者連携の取り組み……………安倍 澄子 4

### 農業懇話会

HACCP の制度化と原材料管理について……………宮本 浩行 6  
質疑応答…………… 23

### 農事功績者座談会

切花バラ・バラ苗生産専作経営（個人・法人）…………… 28  
次世代に繋げるバラ経営……………國枝 武夫 28  
現地指導者のコメント……………野坂 隆太 39  
意見交換…………… 42

### 表彰農家訪問

大規模水耕野菜栽培の導入による中山間地域における  
水田農業経営の安定化……………小巻 克巳 49  
－宮城県栗原市に山村喜久夫さんを訪ねて－

農業・農村の現場から

魅力あるヒトとモノを交流しながら繋いでいく……………澤野 久美 56  
－長野県北安曇郡小谷村「ゆきわり草」藤原真弓氏－

世界の農業は今

インドにおける飼料用トウモロコシの消費展望……………草野 拓司 62

私の経営と志

かっこいい農業経営を目指して……………稲吉 久徳 67

農政情報

…………… 69

令和元年度（第58回）農林水産祭天皇杯等受賞者…………… 70

大日本農会だより…………… 71

ミニ情報

平成30年産 米生産費（個別経営）…………… 27

平成30年産 米生産費（組織法人経営）…………… 48

表紙写真説明

汎用コンバインによる大豆収穫（佐賀県鹿島市）

佐賀県内では大豆の本格的な収穫が始まりました。佐賀県産大豆は、作付の団地化とブロックローテーションにより、10a 当たり収量で全国トップクラスを維持しています。

一方、わが国の大豆単収の上昇スピードはこのところ大きく停滞し、佐賀県もその例外ではありません。その要因は最近の地力の低下や気象災害等さまざままいわれており、現在、農林水産省や試験研究機関が一丸となって単収向上を図るための対策の決定打を模索しているところです。

佐賀では今年8月下旬の大雨により、大豆畑が広域にわたり冠水し、大きな被害が出ました。最近の異常気象が単収向上に大きな影を落としていることだけは明らかなようです。

（写真：九州農政局企画調整室，文：編集部）